

平成25年度 自己評価書

学校名	和歌山市立宮小学校
校長氏名	谷田 幸雄
作成日	平成26年2月21日

1 教育目標

心身共にたくましく、明日の社会を築く、創造性豊かな子どもの育成

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の子どもを深く見つめる。 ・学校からの情報を積極的に発信し、地域の方々に関心をもってもらう。 ・地域に学校を開く。 ・保護者との連携を深める。 ・危機管理の意識を地域の方々と共に深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの心をたがやす。 ・人権意識を高める。 ・心に残る道徳の授業を進めていく。 ・生徒指導の徹底を図る。 ・うちどくの推進を図る。 ・心が豊かになる文学教材に親しむ。 ・学校環境の整備に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「授業」で子どもを鍛える。 ・学ぶこと、わかる楽しさを教え確かな学力を身につけさせる。 ・授業を工夫する。 ・聞く姿勢を育てる。 ・学びあえる学級集団、学習集団づくりに力を入れる。
取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭に課題を持つ子どもを応援するため特に遅刻してくる児童を学校全体で見守った。特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりに取り組んだ。 ・学校便りは日頃お世話になっている地域の方みなさんに直接お配りした。ホームページにも掲載するようにした。 ・地区懇談会を、学校を開く機会ととらえて、積極的に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同和人権教育の授業を計画的におこなうため、同和・人権教材一覧を参考に取り組んだ。 ・教室で子ども同士のもめ事が起きたときには、道徳授業で学習したことを想起させ指導してきた。 ・基本的な生活習慣や生徒指導の徹底に努める。あいさつや帽子、名札、履き物をそろえる等常に働きかけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力や今年度の学習状況調査の結果をふまえて取り組んできた。 ・授業研究や研修を通して、授業の改善に取り組んできた。 ・読書タイムや国語力の向上のための学校全体での取り組みとしてみのりの集会で各学年ごとの音読発表をした。 ・ICT活用方法について機器の活用が徐々に広がってきている。
取組の成果と課題【C】	<ul style="list-style-type: none"> ・通級教室(さぼーと教室)があることにより、普通学級の担任が様々な相談に乗ってもらえている。 ・地区懇談会では、今年度学校でおこなっている人権教育を紹介し理解と協力をお願いするという方向で進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートでは「いじめ」に関しては昨年度よりはわずかに理解度は上向いているが「いじめは許さない」という取り組みを児童や保護者に知らせていかなければならない。 ・豊かな心、優しい心を育てるための学級・学年経営、学校経営がさらに必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書タイムにおいてはさらに集中して読書ができるよう働きかける必要がある。 ・授業研究が活性化してきている。 ・聞く姿勢が伸びてきているように感じる。 ・ICT活用については、パソコンも新しくなりさらに活用するようになってきている。
次年度に向けての改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は肢体不自由児が入学してくることもあり、特別支援教育を積極的に進める。また、校内の研修にとどまらず和歌山大学、紀北支援学校、和歌山ろう学校等との連携を深めていきたい。 ・和歌山市教育研究所とくまのくにの丘との連携事業が来年度実施していただけることになったことを受け、有効に活用していきたい。 ・防災の面から地域と連携した取り組みが必要である。 ・地区懇談会で提案内容についてはさらに吟味し学校教育の理解と人権教育の啓発をおこなってきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が一人一人を大切に、小さなことでも相談できる学校であり、保護者と協力して子育てすることが必要である。 ・さぼーと教室、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置を今後も続けていただき関係機関の協力を得ながら子どもや保護者の相談に乗ってきたい。 ・保護者や児童に対して謙虚な姿勢も大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な学習を徹底して、理解しにくい児童に具体的な手だてを打つことが必要である。 ・学習の意欲を引き出す努力をさらに進める。 ・キャリア教育の面からも学習の意欲を高めていきたい。

3 その他の課題